# 令和3年度　大田区立大森第四中学校　自己評価　報告書

令和4年3月11日

○　本校の概要

池上本門寺や本門寺公園に隣接し、区内屈指の緑豊かな自然に囲まれた学校である。ほぼ毎年野生のタヌキが現れ、子育てをしている。生徒や教職員、地域の方々もそれをほほえましく見守っている学校である。

全学年4学級、約450名の生徒が在籍している。教育目標「恵まれた環境を生かし、『自主的で、品の良い、健康的な、努力を惜しまない生徒』を育てる。」、目指す生徒像として・人権を尊重し、他者とのかかわりを大切にする生徒・人間性豊かで、思いやりのある生徒・明るく健康で、気力あふれる生徒・自ら学び、自ら考え、主体的に行動する生徒とし、令和2・3年度は大田区教育委員会から教育研究推進校の指定を受け、研究主題「生徒一人一人が『学びのエキスパート』を目指す授業づくり」を掲げ授業実践を積み重ねている。

生徒が主体的に取り組み、熱意と力がこもった運動会と清陵祭・合唱コンクール等の学校行事は本校の伝統で、多くの保護者や地域の方が来校する。PTAの応援体制が強力で、コロナ禍以前は「学校支援地域本部」と「親父の会」は毎年夏に校内ペンキ塗りボランティアを主催し、毎年100名近くの生徒がボランティアとして参加があった。活動後には校内の坂を利用した全長約25mの「流しそうめん」を実施し、地域と学校をつなぐ役割を担っていただいていた。また、防災活動拠点訓練を池上特別出張所、市之倉北町会、堤方北町会、桐里梅田町会と協同で実施し、本校第2学年生徒が授業の一環として参加し、防災を通して地域の一員として生徒が活動する場になっていた。状況が改善したのちはぜひ復活させたい。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 評価 | 人数 | コメント |
| プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成 | コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。 | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上が回答した。<br>2:60%以上が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 4 | 生徒アンケートにおいて「大森四中の先生は、授業を工夫して教えてくれる。」と回答した割合 | 4:80%以上<br>3:70%以上<br>2:60%以上<br>1:60%未満 | 4 | ◯行事の後の生徒発表において,タブレットなどの機器を使用した発表の機会を設定する<br>◯ICT機器の活用のための校内研修会を行う<br>◯清陵祭や運動会などの行事に生徒が主体性を持って、一生懸命に取り組めるようにする。 | A | 8 | ○教育研究発表推進校の指定を受ける前から、コミュニケーション能力の向上や生徒の未来を考えたご指導を受けさせていただいたと思います。指定を受け尚一層、力を入れていただき、感謝しております。<br>○タブレット等、学校側、生徒側でいろいろな工夫、アイデアがこれから向上していく事と存じます。<br>○コロナ禍においてもICT等を積極的に活用し、生徒、先生が一体となって未来に向けて活動されていた。<br>○引く続きICT機器を有効活用した授業を進めていただきたい。半面デジタル、アナログそれぞれの良さ、悪さを考えられて自身で選んで最適な方法を見付けられる子どもを増やしてほしいと思います。<br>○今後ともコロナ禍にあたっても生徒の主体性を育てることが大切である。 |
| | | 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 | 4:全教員が行った。<br>3:80%以上の教員が行った。<br>2:60%以上の教員が行った。<br>1:60%未満であった。 | 4 | | | | | | | |
| | | 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 | 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。<br>3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。<br>2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。<br>1:60%未満であった。 | 4 | | | | | B | | |
| | | 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 | 4:対象となる全学級(全教員)で行った。<br>3:80%以上で行った。<br>2:60%以上で行った。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | C | | |
| | | 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | コロナ禍ではあるが、運動会、清陵祭をはじめとした行事や取組において、生徒が主体的に活動できる場と機会を設定している。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 4 | | | | | D | | |

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 評価 | 人数 | コメント |
| プラン２　学力の向上 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4：対象となる全学級（全教員）で行った。<br>3：80％以上で行った。<br>2：60％以上で行った。<br>1：60％未満であった。 | 3 | 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、授業をまじめに受け学習内容を身に付けている。」と回答した割合 | 4：80％以上<br>3：70％以上<br>2：60％以上<br>1：60％未満 | 4 | ○面談において、学習カルテのデータを生徒が主体的に活用できるように指導する。<br><br>○学習チェックシートの活用の仕方の工夫と、結果を保護者に知らせる回数を増やす努力をする。<br><br>○学習効果測定の結果分析から学習改善プランを作成し、小学校との連携を図りながら授業改善を進める。<br><br>○言語活動をより充実させるために、意識的・計画的に様々な活動の場面で行っていく。<br><br>○校内で研究授業を行い授業力の向上を図る。 | A | 7 | ○何のために勉強するのか、なぜ必要なのか、キャリア教育や外部指導員の活用でそのなぜを多くの子どもたちが考える機会を増やし続けてほしいと思います。<br><br>○学習効果測定の結果分析を客観的に見直し、校内での研究授業も積極的に取り組んでいた。<br><br>○とても意義のある推進だと思います。MI診断など、今の子ども立に合った特性を伸ばす教育、私も受けてみたかったです。 |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 | 4:学期に2～3回知らせた。<br>3：学期毎に知らせた。<br>2：年度間に1回は知らせた。<br>1：お知らせできなかった。 | 2 | | | | | B | 1 | |
| | | 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 | 4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。<br>3：80％以上の教員が働きかけた。<br>2：60％以上の教員が働きかけた。<br>1：60％以下の教員が働きかけた。 | 3 | | | | | C | | |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80％以上が回答した。<br>2：60％以上が回答した。<br>1：60％未満であった。 | 4 | | | | | | | |
| | | ＭＩ診断・ASSESS等の調査結果を分析し、そのデータを基に生徒の特性を考慮した授業を実施し、学力の向上を図っている。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80％以上が回答した。<br>2：60％以上が回答した。<br>1：60％未満であった。 | 4 | | | | | D | | |

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 評価 | 人数 | コメント |
| プラン３　豊かな心の育成 | 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4：全教員が行った。<br>3：80％以上の教員が行った。<br>2：60％以上の教員が行った。<br>1：60％未満であった。 | 4 | 生徒対象アンケートにおいて「大森四中の先生は、学習や行事、学級活動で、自分が努力したことを認めてくれる」<br><br>「大森四中には困った時や悩みについて親身になって相談に応じてくれる先生がいる」と回答した生徒の割合 | 4：92％以上<br>3：75％以上<br>2：60％以上<br>1：60％未満 | 4 | ○道徳の授業では考えることと話し合うことを重視し発問を工夫する。また、資料活用による充実を図ると共に、評価についての研修を行う。<br><br>○小中一貫教育の会を通して、校区の学習・生活のスタンダードを確認し、小中連携して指導にあたる。<br><br>○問題行動・不登校問題等について行われた会議の内容は、知るべき教職員が必要な情報を確実に共有できるように努める。<br><br>◯SNSの使用や人権に関する学習では、教員のロールプレイを通して、生徒に深く考える機会を与える努力をする。 | A | 8 | ○教師が自らの人権感覚を見直してみる取組を今後とも続けることが大切である。<br><br>○小中一貫での教育の捉え方は地域力を強めるには有効だと思います。<br><br>○挨拶等の声掛けからも積極的に生徒の健康状態を注視していた。<br><br>○当校の生徒を昔から見ておりますが、とても気持ちの良い挨拶を自然とできるところがすごいことだと思います。<br><br>○不登校はいつの時もなくなることはないようですが、学校、教員とのつながりがあるのは心強いと思います。原因は学校、友達だけではないので、より難しく感じます。 |
| | | | | | | | | | B | | |
| | | | | | | | | | C | | |
| | | | | | | | | | D | | |
| | | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3：学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2：年度間に1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 | 4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3：80％以上の教員が回答した。<br>2：60％以上の教員が回答した。<br>1：60％未満であった。 | 4 | | | | | | | |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3：80％以上の教員が回答した。<br>2：60％以上の教員が回答した。<br>1：60％未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 | 4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。<br>3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。<br>2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。<br>1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 不登校生徒や欠席が多い生徒に対しては、スクールカウンセラーや外部機関と連携し、全教員できめ細やかな対応を行う。 | 4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3：80％以上の教員が回答した。<br>2：60％以上の教員が回答した。<br>1：60％未満であった。 | 4 | | | | | | | |

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 評価 | 人数 | コメント |
| プラン4　体力の向上と健康の増進 | スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。 | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、体育や部活動等を通して基本的生活習慣が身に付き、体力が向上している。」と回答した割合 | 4：80%以上 | 4 | ○毎時の授業において5分間走の取組を行っている。授業以外の場での取り組みができるかを検討する。<br><br>○月間取組については、アンケートにより実態を把握し、効果的な意識啓発を行っていく。<br><br>○「食育」について、教職員が意識を高め、給食指導に限らず各教科等においても計画的に推進する。 | A | 6 | ○体力の向上はまだまだ取組が足りないと思います。他校にはない大森第四中学校の立地をな生かした運動習慣の確立を期待しています。<br><br>○保護者にも積極的に働きかけを行い、食育活動に力を入れていた。<br><br>○生活習慣の見直しなど、親だけではなく、子どもたちが自ら感じることの大切さ、学ばせていただきました。<br><br>○責任をもった行動で、外に出た時も同じことができるように。 |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | | 3：70%以上 | | | B | 2 | |
| | | 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 3 | | 2：60%以上 | | | C | | |
| | | 保健体育の授業・保健指導・食育を中心に、生徒の運動・体力・健康・感染症防止等についての意識を高める。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 3 | | 1：60%未満 | | | D | | |
| プラン5　魅力ある教育環境づくり | 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | | 保護者対象アンケートにおいて「教職員は分かりやすい授業を心掛けている。」と回答した割合<br><br>「お子さんは授業や教員の指導によって学習意欲が引き出されている。」と回答した割合 | 4：90%以上 | 4 | ○授業評価のアンケート結果をたくさんいただけるように工夫し、その結果を授業に生かす。<br><br>○校内で相互の授業見学を活発に行い、主任教諭によるOJTを充実させる。<br><br>○研究会・研修会に計画的に参加し、その成果を授業改善に生かす。<br><br>○分かりやすい授業、興味・関心を高める授業を目指し、ICT機器を活用した授業を展開する。<br><br>○特別支援教育について、担任と校内委員会が連携し、組織的に推進する。 | A | 7 | ○常に考えていただけていると思います。<br><br>○研究発表会の研究・研修の成果を積極的に取り入れていた。<br><br>○教職員の更なる授業力の向上を期待しています。<br><br>○校内の取組に加え、郊外の研修機会等を活用することも大切である。 |
| | | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3：学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2：年度間に1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 3 | | 3：75%以上 | | | B | 1 | |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | | 2：60%以上 | | | C | | |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 4：月1回以上行った。<br>3：学期に2～3回行った。<br>2：学期1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 3 | | 1：60%未満 | | | D | | |
| | | 学校生活調査と学級集団調査の結果を分析し、生徒一人一人の状況を把握した上で、よりよい学級集団づくりに向け取り組む。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | | | | | | | |

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 評価 | 人数 | コメント |
| プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育 | 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4：月1回以上更新した。<br>3：学期に2～3回更新した。<br>2：学期1回以上更新した。<br>1：更新しなかった。 | 3 | 保護者対象アンケートにおいて「学校は、保護者会・三者面談などで保護者の考えや願いを聞く機会を持っている」と回答した割合 | 4：90%以上<br>3：75%以上<br>2：60%以上<br>1：60%未満 | 4 | ○地域教育連絡評議会において、評価に必要な情報を確認し、その情報を十分に提供して適正な評価につなげる。<br><br>○外部指導員の招聘について、学校支援地域本部の力を積極的に活用していく。<br><br>○同一歩調で指導にあたることができるように、実際の指導の経過・結果を十分に共有し、各自の生活指導に反映させる。 | A<br>B<br>C<br>D | 6<br>2 | ○学校、家庭、地域の協力、役割は生徒で見守る、育てることができ、安心感があります。<br><br>○コロナ禍で多少難しい事もありますが、子どもたちは順応性も高いので、大人より分かっているかもしれませんね。<br><br>○コロナ禍にありながら、工夫して地域との連携に努力した。<br><br>○地域教育連絡協議会、学校支援地域本部、今後の学校と地域の関わり方を考えると、もっと有効活用する方法を模索していく必要があると思います。<br>　コロナが落ち着き、地域行事が復活したら青少対も含め、どういう関わり方が今はベストかを一緒に考えていきたいと思っています。<br><br>○HP,SNSなどを活用し学校の取組を発信することが大切である。 |
| | | 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 4：毎回情報を提供した。<br>3：おおむね情報を提供した。<br>2：あまり情報を提供しなかった。<br>1：情報を提供しなかった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 4：学期に2～3回行った。<br>3:学期1回以上行った<br>2：年1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 町会や青少対等地域との連携に替わるボランティア活動を設定することで、積極的に関わるよう、生徒に働き掛けていく。 | 4：学期に2～3回参加した。<br>3:学期1回以上参加した。<br>2：年1回以上行った。<br>1：参加しなかった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 家庭学習の取組をタブレットPCの活用も含め一層推進していくために、様々な場面で保護者に呼び掛けながら理解いただき、家庭との連携を強化していく。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| 特色ある取組 | 地域とのつながりを大切にする機会をつくります。 | 防災教育の充実を進め、生徒の理解を深めることによって避難所と避難場所の運営に貢献できる態度を養う。 | 4：全学級で働きかけた。<br>3：80%以上の学級で働きかけた。<br>2：60%以上の学級で働きかけた。<br>1：働きかけた学級は60%未満であった。 | 4 | 生徒対象アンケートにおいて「ボランティア活動等に積極的に参加し，地域に貢献しようとしている」と回答した割合 | 4：80%以上<br>3：70%以上<br>2：60%以上<br>1：60%未満 | 3 | ○校内や地域の活動、地域のイベントに積極的に参加できるようにする。 | A<br>B<br>C<br>D | 4<br>2 | ○今世にとても大事な教育ですね。思いやりをもった正確な行動を慌てずに、心と身体に覚えさせたいです。<br><br>○制約がある中での連携に一層工夫をしていく。 |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。